

富士山雑学

JJ1SXA/池

240 グループの恒例の電波伝搬実験の移動地としても選択される、静岡県と山梨県にまたがってそびえる日本一高い山「富士山」、車で行けるのは、普通では五合目までだ、五合目から頂上へはブルドーザーで行ける、一口に五合目と言うが、五合目と称する地点は、標高の高い順で「富士宮口五合目…約 2,400m」、「富士スバルライン五合目…約 2,305m」、「須走口五合目…約 2,000m」、「御殿場口新五合目…約 1,440m」と四つもあり、山頂は静岡県、山梨県のどちらにも属さない、と言われているが、「浅間大社奥宮」に同居する、「富士山頂郵便局」の住所は、静岡県富士宮市になっている、「富士山頂郵便局」の開設されるのは、夏山シーズン限定で、2024 年の開設期間は、7 月 11 日から 8 月 19 日の間の予定だ、1906 年に開設された日本一高い場所にある郵便局で、国際郵便を含む郵便物の引受や切手の販売、登頂を記念したオリジナルグッズの販売などを行っている、また、気象庁、環境省、国交省関係の土地を除いた八合目から山頂までの土地は「富士山本宮浅間大社(ふじさんほんぐうせんげんたいしゃ)」の私有地となっている。

富士山山頂には、吉田口、須走口、富士宮口の 3 つのルートに山小屋があり、吉田口にある山小屋は「山口屋」と「東京屋」で、東京屋は売店と食堂のみで宿泊は受け付けていない、須走口には「山口屋」、「扇屋」があるとされるが、須走口八合目以上は、吉田ルートと合流するため、「山口屋」は、吉田口にある「山口屋」と同一のものだ。

富士宮口にある山小屋は「頂上富士館」で、日本一標高の高い場所(約 3,740m)にある宿泊施設として知られているようだ。

「五合目」という、この「合目」だが、登山道では、麓の登山口から山頂までの登山道を 10 分割した境界となる場所を「合目」と呼び、標高や距離、所要時間とは関係なく、登山の難易度を示す目安として「合目」が用いられていますとのこと。

「世界山岳百科事典」に記載されている説が非常に興味深い、一合(山麓)から始まって十合(山頂)で終わる合目は、仏教の教義でいう十界にあたり、一合目(地獄道)、二合目(餓鬼道)、三合目(畜生道)、四合目(修羅道)、五合目(修験道)までを地界、これより上の六合目(天道)、七合目(声聞道…しょうもん)、八合目(縁覚道)、九合目(菩薩道)、頂上(妙覚)を天界とし、十界を山にあらわして苦修練行をしているという。

現在、富士山のライフラインを支えているのは「ブルドーザー」だということだが、気象庁の富士山頂に気象レーダー設置計画で、工事に必要な大量の骨材運搬等にヘリコプターだけでの輸送は特殊な気流のため困難で、ブルドーザーも使う必要に駆られ実現したものだそうです。

この工事の一番の難題は、レーダードーム骨格(620 kg)を空輸して台座に据え付ける作業だ、パイロットは、ゼロ戦パイロットの養成教官だったベテランの神田真三氏、多くの教え子を特攻作戦で見送ったことを踏まえ、決死の覚悟でこの困難な任務に挑んだとのこと、浮力を稼ぐためにヘリのドア、副操縦士席、消火器等を外し、燃料も 30 分飛行分に絞ったギリギリの条件(それでも 80 kg 重量超過だったようだ)で決死のフライト、ホバリングも難しい富士山頂へ空輸、そして台座に据え付け成功、まさに神業だ。



頂上浅間大社奥宮



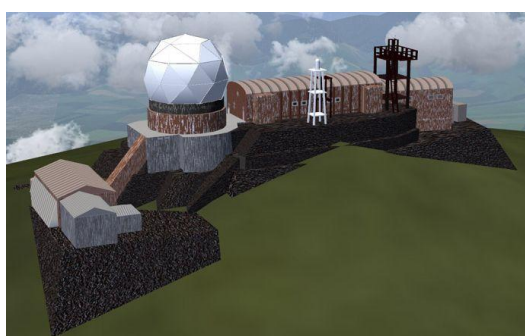
富士山頂郵便局



ライフラインを支えるブルドーザー



レーダードーム骨格の空輸&据え付けられたレーダードーム



(2004年4月記)